



今月のティオフ

子 どもの頃、ゴルフ場の隣に住んでいて、ゴルフは身近にあった。両親と一緒に練習場に行ったり、2、3回コースに連れて行ってもらったが、本格的にプレーするようになったのは弁護士になってから。バブル経済の始まりの頃で、社会人1、2年目ながら企業から接待を受け、仕事絡みのゴルフがほとんどだった。ゴルフが好きだったし、当時は「90以上打ったらコースに出てはいけない」と言われ、練習していたので、

最初から90前後でラウンドできた。バブル崩壊後、接待ゴルフはなくなり、それからは仕事で知り合ったゴルフ愛好者とプライベートで行くようになり、10年前から中学・高校の同級生とのプレーも増えた。月2〜3回ラウンドしている。ホームコースの月例競技には何度か出たが、スコアを追い求めることはあまり好きではない。それよりも、美味しいビールを飲み仲間と楽しい1日を過ごすことを楽しみにしている。

とはいえ、何かと厳しく言われた時代にゴルフを覚えたので、マナーとルールを守り、ボールが木

ゴルファーを増やすためにも 正しいスウィングを定義して普及を

渡辺昭典 (栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部理事、弁護士)

の根元にあるのがノータッチでプレーする。いい加減にはやらない。

また、最近のクラブは楽に振れて飛ぶように作られているが、性能に頼りたくない。いかにクラブの芯でボールを打つかにこだわっており、アイアンはマッスルバックで2番から入れている。年をとってロングアイアンを使いこなすのが難しくなったが、ユーティリティは使わない。芯に当たらないと手が痺れるが、芯に当たれば打感が気持ちよくボールも飛んでいく。そのたまに出るナイスショットしたときがすごく楽しい。ゴルフの醍醐味だと思っている。

よりゴルフを楽しむために、50歳になつてから、正しくダウンブローで打てるようスウィング矯正に取り組んでいる。すくい打ちをしていて、アプローチでダフリが出るようになったからだ。加齢で飛距離が落ちるのは仕方がないが、小技が上手くできなくなったことには納得できずゴルフがつまらなくなつたと、65〜70歳で離れる人が結構多い。そうならないようにいくつかもスクールに通つたし、本やYouTubeも見したが、それ

ぞれアドバイスが異なり、いろいろな知識が氾濫していて、正しい基本が分からなくなった。ゴルフアートを増やすためにも、正しい基本のスウィングを定義して普及することが大切ではないだろうか。歳をとつてダフリが出るようになってきた際に正しい矯正のアドバイスができれば、熟練ゴルファーはもつと長くゴルフを楽しむようになるだろう。

加えて、現在のレディステイヤーは距離が長すぎるように思う。最近、前方に距離の短いティーを設置するゴルフ場が増えているが、母が80歳のときに前方のティーからプレーし、とても喜んだ。多くの人に楽しんでもらうには重要だと思つた。

13年間取り組んだ矯正は、ほぼ完成した。コースに出ると元に戻るので制限していたが、来年は誘われたら全部行くと思つている。



イラスト・小野塚綾子